

2024~2025年度 地区スローガン

持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動  
Make Rotary Sustainable ! Learn together Act together

No.25

2024~2025年度クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、人生をエンジョイ

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30 例会場 勝山市市民交流センター 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760 <https://rid2650-pub.com/katsuyama/> Email:katsuyamarc@gmail.com  
■会長 斎藤清一郎 ■幹事 久保光子 編集発行・文責 公共イメージ委員会

## 第3063回 例会 (1月14日)

### ●会長スピーチ



会長 斎藤 清一郎

先週の新年会は楽しく飲んで語っての時間を過ごせました。特に富士根会員の落語は秀逸だったと思います。ゴルフに大相撲そして落語の同好会もできるのではないかと思います。富士根さん、楽しい落語をありがとうございました。

さて、コロナが収まりかけたら今度はインフルエンザが蔓延しております。皆さんのまわりでも罹った方が大勢おられると思います。どうか、手洗い、マスク着用を心掛けて十分に注意していただきたいと思います。

### ●幹事報告

幹事 久保 光子

○地区大会の登録申し込みを1月21日までにお願いします。

○2027-28 年度ガバナーに京都洛北ロータリークラブ 会員 中野 耕太郎(なかの こうたろう)君を推薦することに全会一致で決定致しました。

○チャリティー映画会のご案内

勝山市社会福祉協議会

3月8日(土) 勝山市民会館「銀河鉄道の父」

### ●委員会報告

#### ●会計

山内 政司

第3期会費引落としとなりますのでよろしくお願ひします。

#### ●出席報告

上山 弥一

1月14日	欠席1名	95.24%
1月7日	欠席3名	86.36%

#### ●ニコニコ報告

山内 政司

年度折り返しにあたって

斎藤清一郎

会員誕生

鷲田政憲

伴侶誕生

鷲田政憲・中道直司・斎藤清一郎



## ゲスト卓話

### 勝山市の歴史について

勝山市 市史編纂室 山田 雄造 氏



勝山の市史編纂室がどのようなことをやっているかといいますと、今年は平泉寺の33年の御開帳の年で、片瀬の仏母寺でも御開帳があります。

色んなイベントがありますが、私たちは、勝山城博物館で展示を行う準備をしています。

3月の終わりごろから、1部と2部に分けて、平泉寺の御開帳を中心に平泉寺の事や、白山の山頂について今まで分かっていなかった事などを調べて展示しようと資料などを探しているところです。

皆さん、勝山といえば小笠原が思い浮かぶと思いますが、一番最初の藩主は結城秀康で、次に勝山藩主として1620年に松平氏がこられた事など、10数年に渡って色んな展

示を行ってきました。

一番の大きな仕事は勝山市内の近世の古文書の資料整理をしています。平泉寺の平泉家の膨大な資料、西方寺に保管されていた江戸時代の資料は、勝山の町年寄だった近藤氏が北海道へ開拓に行く際に預けていったものなど貴重な文書の目録を作り、撮影するという作業を主にしています。

以前は福井県史の作成に携わり、江戸時代の文書を読む力を身に着けましたので、定年退職後は勝山市でこのような仕事をしています。

勝山市は空襲を受けていないため、大量の文書が残っています。これは本当に貴重なもので、一年間のまちの様子が見えるものもあります。

本日 プログラム	ゲスト卓話 勝山市国際交流員	1月28日 プログラム	ゲスト卓話 桜川幸夫氏	2月4日 プログラム	会員卓話 幅田浩二会員	2月11日 プログラム	休会
-------------	-------------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----



九頭竜川で洪水が起きる前後の絵図や、勝山のまちの絵図は十数点残っていますし、山道、田地境などの絵図もたくさんあります。

こういった資料は世代が変わると捨てられてしまったりします。市ではこれらを集め保管したいと思っていますが、場所がありません。一般の方も見られるような、資料館が欲しいとつくづく思います。

### 元禄時代勝山町図

本町、後町の家屋の様子がわかり、これだけ町の様子がわかるものは福井県内にはありません。それほどすごい絵図なのです。

道の中央に用水が通っていることが描かれています。この用水の源は九頭竜川で、大渡に取り入れ口があり、猪瀬地区の田んぼの用水だけでなく、町のなかに用水を通していました。勝山は雪が降りますから、雪を流したり生活用水として使われました。勝山の町は本当にすごいと思います。これだけのことを、1600年頃にやっていたのです。

お寺の場所からも絵図の年代がわかります。神社とお寺は必ずペアになっています。例をあげると、神明神社と国泰寺です。神明神社はもともと国泰寺の傍にありました。

他にも松屋さんがお持ちの絵図は七里壁が描かれたものがあり、本来は崖でした。七里壁の下にはたくさんの清水がありました。段差が10メートル位のところもあり、たくさんの水が湧き出ている、大野市以上に清水があったこととなります。

ただ、繊維会社ができ、多くの水を汲み上げたために涸れてしまいました。

道や川の様子からも絵図の描かれた年代が推定できます。簡単な絵図からも多くの情報が得られます。

大用水の図をみますと、広い川から大用水へ通す当時の技術がどのようなものだったかを考えるのは本当に面白いのです。

また1709年に幕府に提出した勝山城の見取り図もあります。この頃になると、新たな築城は許可されません。古いお城を利用して作るということで小笠原の殿様が懇願しました。

ただ、この城がどのように作られたかはわかりません。1820年代に火災になり、そのままになった後、廃城となったため、未完の城になりました。